東北復興日記 102

のらとも農園
広畑裕子さん

南相馬市の今を知って

お盆の時季になり、あちらこちらの仮設住宅から「仏花はないですか」という問い合わせが「のらとも農園」＝写真＝にきます。ここは震災から二年が過ぎた昨年春に、みんなで一緒につくった農園です。荒れ地を開墾し、ビニールハウスを建て、花の苗を作り、育ててきました。交流する機会も増え、家に帰って農業を再開する人も出てきました。そして今、毎日やってくる人たちとの会話の中で、一人一人の心の復興は、それぞれであると感じています。

いつまで私たちは被災者なのでしょうか？　被災者とはどういうことなのでしょうか？　答えがないまま時間だけが過ぎていきます。「私は被災者をやめよう。自分から被災者の殻を脱がなければ」と最近は思っています。これからどう生きていくかが大切なのです。

世界では大変なことが毎日起こっています。震災を経験した者だからこそしなくてはならないこと、それは私たちと同じ苦しみを少しでも無くす努力です。世界中どこでも、災害は起こります。その時にその人たちに寄り添うことが、私たちにできることではないでしょうか。

大震災、原発事故からの教訓を伝えることは大切なこと。私が経験した中で最も重要だと思ったことは、今この時の実態です。実際現場に行かないと分からないことばかりでニュースやうわさで伝えられていることの大半は、現状に即していないことばかりでした。

復興も同じで、もう終わったこととして捉えられている、日本中の人たちに忘れられている感じがします。実際現場に来ていただいて、自分の目で見て心で感じていただきたいと思います。

地震、津波、原発事故を経験し、その中から本当に自分たちが大切に思うものを、時間とともに変化する状況の中でも変わらない大切なものを、伝えていきたいのです。「南相馬市の今を知っていただきたい」。この思いをどうすれば伝えられるのでしょうか？　私たちにはそのすべが分かりません。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。